

理科 第4学年 天気と気温 検討会の想定問答

指摘 1: 本時で何を見取るのか。

返し: 「晴れの日と曇りや雨の日では、気温の変わり方は同じだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。結論の暗唱ではなく、根拠の箇所を指し示せるかを見取る。本時は単元で集めた記録を整理する時間として置く。

指摘 2: 活動だけで終わらないか。

返し: 同じ場所・同じ測り方で得た時刻ごとの気温と天気の記録を折れ線グラフにし、上がり下がりの様子を比べる。観測していない時刻の値は推測で埋めない。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(4)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3: 予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し: 一番高い温度だけで一日の変化を説明する場合、朝から午後までの線を指でたどる。日光が温度計へ直接当たった測定は条件を再確認する。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(4)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4: 説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し: 比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。天気と気温の関係を説明する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5: 安全や個人への配慮は何か。

返し: 温度計は落下・破損を防ぎ、日射や雨を避ける適切な場所で測る。雷雨や猛暑の観測を強行しない。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(4)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6: 資料やICTはどのように使うか。

返し: 同じ場所・同じ測り方で得た時刻ごとの気温と天気の記録を折れ線グラフにし、上がり下がりの様子を比べる。観測していない時刻の値は推測で埋めない。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7: 時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し: 全5時間は東京書籍の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「晴れの日と曇りや雨の日では、気温の変わり方は同じだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8: 振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し: 「晴れの日と曇りや雨の日では、気温の変わり方は同じだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。天気と気温の関係を説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

